



新 型コロナの影響によって、昨年度は入行式や新人研修がリモート開催だった金融機関は多い。そのため、新人は同期とのつながりを作ることが難しかった。飲み会などの会食も自粛が求められているため、同期で集ま

このように
対応しよう

OJT担当者とは別に営業店内での「コロナ下対応メンター」を任命しよう

って互いに悩みを打ち明ける機会を持つことが困難な状態となっているのである。

新人の多くは、学生時代の友人と仕事上の悩みを相談し合う。それでも、業種や会社が違うと内容を理解してもらうことが難しいため、十分に悩みを解消できているとは言えないだろう。

また、金融機関の中には若手が自由に交流できる行職員専用サイトを開設しているところもある。ただ、上司に見られるのが恐くて本音を書けなかったり、頻繁に書込みをすると仕事をサボっていると思われると考えたりして、利用していないことも多い。ほかに、月1回面談を行い新人の悩みを聞く取組みを

行う金融機関もあるが、年の離れた上司との短時間の面談では、本音を打ち明けられないのが実態であろう。

従来と違う環境での経験を聞くことが重要

OJT担当者は、この問題を解決するためにどうすればよいのか。

1つの方法として、営業店内で新人と年が近い先輩の中から「コロナ下対応メンター」を任命することがある。OJT担当者とは別にメンターを置くことで、新人が悩みを話しやすくなる。

メンターに任命された人はまず、新人に「入行以来、コロナ下でどんな生活・仕事をしてきたのか」を聞いてみよ

POINT

メンターが新人の立場を理解しコロナ下の生活・仕事を聞くこと

新人も、入行後の苦勞をじっくりと聞いてもらうだけでも、気持ちが軽くなるはずである。
(吉村輝寿)

〈ケース別〉コロナでこんなことに悩む後輩にOJT担当者はどう対応するか

1

新人への指導に関する問題

後輩が同期とのつながりを持てずに不安を感じている

